NEWS RELEASE

HAKUTEN

平成 29 年２月７日

各　位

上場会社名　株式会社博展
（コード番号：2173　東証ＪＡＳＤＡＱ）
本社所在地　東京都中央区築地一丁目 13 番 14 号
代表者　代表取締役社長　田口徳久
問合せ先　取締役経営本部長　玉井　昭
電話番号　０３（６２７８）００１０

特別損失の計上および業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 29 年３月期の決算において、下記のとおり特別損失を計上する見込みとなりましたのでお知らせするとともに、平成 28 年 11 月２日に公表いたしました業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

１．特別損失の計上について

当社は、当社の連結子会社である株式会社アイアクトの事業について、昨今の IoT や AI 等目覚ましいデジタル技術革新時代に対応すべく、従来の事業モデルからの脱却・進化を目指し体制強化を図ってまいりました。

しかしながら、同社買収時における将来収益獲得能力を評価のうえ計上しておりました同社の株式取得価額については、直近の業績見込み並びに来期の事業計画等を勘案した結果、当初の利益計画には及ばないことが明らかになったため、株式取得時の投資価値は毀損していると判断し、関係会社株式評価損 219 百万円を特別損失に計上することといたしました。なお、当該関係会社株式評価損につきましては、連結決算上消去されるため、連結決算業績に与える影響はありません。

また、個別決算において上記の関係会社株式評価損を計上することに伴い、連結決算において同社に係るのれんを一括償却し、のれん償却額 53 百万円を特別損失に計上いたしました。

２．業績予想数値の修正

平成 29 年３月期　通期連結業績予想数値の修正

（平成 28 年４月１日～平成 29 年３月 31 日）　（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（A）	9,400	120	110	70	18 円 26 銭
今回修正予想（B）	8,933	△340	△350	△320	△83 円 45 銭
増減額（B－A）	△467	△460	△460	△390	
増減率（%）	△5.0	－	－	－	
(ご参考)前期実績 (平成 28 年３月期)	8,088	170	161	97	26 円 33 銭

平成 29 年３月期　通期個別業績予想数値の修正
（平成 28 年４月１日～平成 29 年３月 31 日）　（単位：百万円）

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
前回発表予想（Ａ）	8,649	200	190	127	33 円 13 銭
今回修正予想（Ｂ）	8,267	△106	△115	△300	△78 円 24 銭
増減額（Ｂ－Ａ）	△382	△306	△305	△427	
増減率（%）	△4.4	－	－	－	
(ご参考)前期実績 (平成 28 年３月期)	7,449	235	227	150	40 円 70 銭

３．修正の理由

当社グループにおける平成 29 年３月期の通期連結売上高につきましては、リアルとデジタルの融合によって創出されるエクスペリエンス・マーケティング事業の主力である展示会事業においては、クライアントの出展計画・規模の見直しや、受注競争環境の激化等により前年と比較し微増にとどまることとになりました。

また、当社の連結子会社である株式会社アイアクトやタケロボ株式会社では、新規事業への開発投資を積極的に推進してまいりましたが、開発スケジュールの見直しや市場環境の変動等もあり、修正計画には未達となる 89 億 33 百万円となる見通しとなりました。

連結営業利益につきましては､平成 28 年 11 月２日に公表いたしました業績予想の修正の理由に加え、上記競争環境激化に伴う売上総利益率の低下や受注獲得先行費用の増加等が影響すると共に、次世代型マーケティング＆コミュニケーションのための AI･コグィテニティブ投資関連費用や新たな事業領域への挑戦のための戦略的 M&A 関連費用などの先行投資コストを吸収すべく、各事業ともに売上高の拡大に努めてまいりましたが、上記のとおり売上高が期初計画に届かない見込みとなったため、今期においては当該先行コストを吸収することができず、営業損失３億 40 百万円、経常損失３億 50 百万円、親会社株主に帰属する当期純損失３億 20 百万円となる見通しとなりました。

平成 29 年３月期の個別業績につきましては、連結業績の修正理由と同様、イベント・展示会市場における競争環境変化に伴うコンペ案件の増加等の受注獲得競争の影響により、売上高が予想を下回る見込みとなりました。営業利益につきましても、多様化・大規模化するプロジェクトの管理コストや拡大する業容に対する先行投資の増加およびこれらの投資に対応する新たな売上獲得の実現と業務効率の最適化の実現が遅れ、営業損失１億６百万円、経常損失は１億 15 百万円となる見通しとなりました。

また、上記「１．特別損失の計上について」に記載のとおり、当第３四半期累計期間の個別決算において、関係会社株式評価損 219 百万円を特別損失として計上したことにより、当期純損失３億円となる見通しとなりました。

なお、配当予想につきましては、前回予想（期末 14 円）から変更しておりません。

※今回の業績予想につきましては、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後様々な要因によって異なる可能性があります。

以　上